福島県農業総合センターだより

ラウンド農ふくしま

第38号
2018.11

Fukushima Agricultural Technology Centre

研究成果紹介（畜産研究所）

新たな基幹種雄牛「勝忠安福」誕生！

勝忠安福　かつただやすふく

生年月日	平成24年6月28日
登録番号	黒原5825
審査得点	84.3
産　　地	石川郡古殿町
繁 殖 者	石井利行氏
美　　点	体積、体上線、尻、資質
欠　　点	やや体下線
遺 伝 病	フリー
推奨交配	藤良系（隆之国、美国桜） 但馬系（安福久、美津照重） 気高系（幸紀雄、百合茂）

父
- 勝忠平
  - 祖父 平茂勝 ― 曾祖父 第20平茂
  - 祖母 うめ2 ― 曾祖父 忠福

母
- やすこ
  - 祖父 安福久 ― 曾祖父 安福165の9
  - 祖母 ゆりこ ― 曾祖父 百合茂

平成30年８月31日に福島県肉用牛改良委員会が開催され「勝忠安福」が基幹種雄牛として選抜されました。「勝忠安福」は平成24年に脂肪交雑育種価が県内第１位であった「やすこ（父：安福久）」を母に持ち、父が「勝忠平」という気高系の種雄牛です。

現場後代検定では「枝肉重量」「ロース芯面積」「バラの厚さ」「歩留基準値」「BMS No.」が歴代の県基幹種雄牛の中でトップの成績でした。

育種価評価（平成30年９月評価）では、枝肉重量が94.124kg、ロース芯面積が22.363㎠、バラの厚さが1.989㎝、歩留基準値が4.005、脂肪交雑2.970と現場後代検定成績を裏付ける評価を獲得しました。

平成29年９月に開催された第11回全国和牛能力共進会宮城大会第８区（若雄後代検定牛群）において、「勝忠安福」産子が優等賞６席に入賞して、東日本地域ではトップの成績を収め、全国的にも知名度が上がっております。

今後、「勝忠安福」が本県肉用牛改良の発展に大いに貢献するものと期待できますので、みなさま、どうぞご活用ください。

問合せは　畜産研究所肉畜科　☎024-593-1223まで

業務内容の紹介（安全農業推進部）

ベトナム向け輸出ナシ検疫業務の紹介

昨年１月16日、日本産ナシ生果実のベトナムへの輸出が解禁され、福島県産ナシの輸出が始まりました。

日本からベトナムへ生果実を輸出する場合は、ベトナムの検疫条件に適合する必要があり、この条件の一つとして、日本の栽培地での検査が求められています。このため、安全農業推進部職員が農林事務所や農協の職員と共に検査補助員として、国の植物検疫官に協力して検査しています。具体的には、国の検査前に園地内の病害虫の発生状況の目視検査や（図１）、生産者が定められた防除暦に従って防除を実施しているか等の確認を行っています。

この栽培地検査は、郡山市といわき市の生産園地で実施しており（表１）、平成29年、30年ともに全ての園地において合格し、無事輸出されました。原発事故後の風評被害の払拭、ブランド力の向上に寄与するため、今後も輸出検疫業務を通じた支援をしていきます。

表１　検査の実績

地区	平成29年			平成30年		
	検査面積(a)	検査回数	延べ人数	検査面積(a)	検査回数	延べ人数
いわき市	1,110	11	41	1,989	14	37
郡山市	1,648	8	26	1,841	8	36
計	2,758	19	67	3,830	22	73

図１　病害虫の発生状況を検査する様子

問合せは　安全農業推進部　☎024-958-1708まで

研究内容紹介（企画経営部経営・農作業科）

エゴマ選別機の開発

福島県では古くから愛されてきたエゴマは、最近の健康食ブームで全国的に知名度を上げてきました。しかし、現在、エゴマの選別には多くの手間がかかります。そこで、エゴマ選別機を開発しました。

エゴマは、直径1㎜ほどの小さな種です。どんなにていねいに収穫をしても、ゴミや砂粒、他の草の種子などが混ざってしまいます。伝統的な選別方法では、ふるいを使って大きなゴミを取り除き、“とうみ”を用いて軽いゴミを吹き飛ばし、水で洗い比重の異なるゴミを選り分け……最後に残ったゴミを農家さんがピンセットと虫眼鏡を頼りにひとつひとつ取り除いていました。

これでは、全国の「エゴマが欲しい！」という声に応えることができません。そこで開発したのが、ベルトコンベヤを利用したエゴマの選別機です。

傾きのついたベルトコンベヤを上方に向かって回転させ、そこにエゴマを落とします。丸くなめらかなエゴマはベルトコンベヤの回転に逆らい下方に転がり落ちていきます。エゴマ以外のものは、ベルトコンベヤに引っかかり回転と共に上方に選り分けられます。昨年度の試作機では、1時間で2kgを選別することができました。

この試作機は改良を重ね、選別の速度は速くなっています。いずれ全国の健康志向の方々に福島県産のエゴマをお届けすることを目指して、研究を進めていきます。

図１　試作したエゴマ選別機

問合せは　企画経営部経営・農作業科　☎024-958-1714まで

研究成果紹介（果樹研究所）

モモ樹の台木による生育の違い

本県の多様な栽培条件に適応できるモモ台木を選定するため、「おはつもも」を対照として「ひだ国府紅しだれ」、「ネマガード」、「長野野生桃」の４種の台木を用いた「ゆうぞら」の生育特性を比較しました。

「ひだ国府紅しだれ」は主幹障害の発生が少なく、健全な樹体生育を維持できる台木です。樹冠拡大がやや遅く、初期収量は少ないものの、幹断面積当たり収量が最も多く、生産効率の高い台木であることがわかりました。

「ネマガード」は樹冠拡大が「おはつもも」に比べやや早く、早期多収性の台木です。

「長野野生桃」は樹体生育や収量性が「おはつもも」と同等です。

10年生時において、「おはつもも」、「ネマガード」、「長野野生桃」は主幹障害が発生しているものの、樹勢への影響が認められません。また、果実品質は、台木間に差が認められませんでした。

図１　主幹障害の有無（左：ひだ国府紅しだれ、右：ネマガード）
○内に障害発生

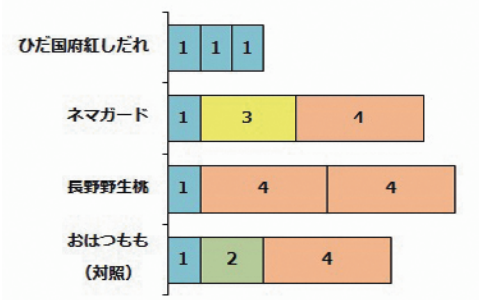

図２　「ゆうぞら」の台木別主幹障害発生程度（３樹合計）
指数１：表皮亀裂，指数２：皮層部亀裂
指数３：10㎝未満の障害，指数４：10～30㎝の障害

問合せは　果樹研究所栽培科　☎024-542-4951まで

業務内容紹介（浜地域農業再生研究センター）

営農再開に向けた浜地域農業再生研究センターの取組

浜地域農業再生研究センターは、国や県の試験研究機関が開発した基幹技術をベースに現地で調査研究を行うとともに、得られた研究成果を直接現場に還元するなど、避難地域等の営農再開・農業再生に向けて、農業者を支援しています。

平成30年度は、関係者の皆様の協力を得ながら30課題33地点で実証研究に取り組んでおり、水稲、野菜、花き、飼料作物、地力増進作物など多岐にわたる農作物の栽培実証に加え、畜産再開のための環境整備、鳥獣被害防止対策、除染後農地の地力回復や雑草対策等の実証研究に取り組んでいます。また、ICT やロボット技術等の先進技術を活用して、農業の効率化に向けた研究も実施しています。

対象地区においては、実証研究を契機に、タマネギの機械化栽培や、トルコギキョウ、コギクなどの新品目の栽培が定着してきており、一方では、エゴマや飼料用トウモロコシなどの土地利用型作物の取組も増加しています。

各市町村では、帰還困難区域を除いて避難指示の解除が進み、解除地区での営農再開が徐々に進んできています。当研究センターでは、農業者の皆様とともに現地における課題を解決することで、営農再開と地域の農業再生に向けた研究に取り組んでまいります。

図１　タマネギセミナーの開催

図２　トルコギキョウセミナーの開催

問合せは　浜地域農業再生研究センター　☎0244-26-9562まで

業務内容紹介（有機農業推進室）

有機農業推進活動紹介

有機農業や有機農産物への理解を深めていただくため、農業総合センターまつりにおいて「有機農業を知って得する。親子でトマト収穫体験」として、有機農業のミニ勉強会と有機栽培ほ場での収穫体験イベントを行いました。両日併せて４回開催し、72名の方に参加いただきました。

有機栽培ほ場では、天敵温存植物による害虫の抑制管理を実施しており、一際大きく育ったソルゴーが参加者の目を引いていました。収穫体験では、袋いっぱいにミニトマトを詰め、草の生い茂る有機栽培ほ場を興味深く見て回る参加者もいました。今後とも有機農業を身近に感じていただけるよう活動してまいります。

図１　ミニ勉強会の様子

図２　ほ場で収穫体験①

図３　ほ場で収穫体験②

問合せは　有機農業推進室　☎024-958-1711まで

お知らせ

●農業総合センターまつりを開催しました

９月７、８日に本部会場（郡山市）、14日に果樹研究所会場（福島市）で農業総合センターまつりを開催しました。本部会場では２日間合わせて3,812人、果樹研究所会場では1,040人の来場者がありました。まつりでは、農業総合センターの成果展示、農業に関する技術相談や、子どもから大人まで楽しめるイベントの開催、センターで収穫された農産物の販売などが行われ、多くの方に農業総合センターを知ってもらえるイベントとなりました。

米の食味試験にチャレンジ！

センターでとれた農産物の販売

研究成果展示

●農業短期大学校　平成31年度　学生募集（一般入試）

実践的な農業の技術力と経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業経営部の学生を募集します。

詳細につきましては、農業短期大学校ホームページをご覧になるか、農業経営部教務管理（☎0248-42-4113）までお問い合わせください。

	募　集　人　員	願書受付期間	試験日
前期	10名程度 （水田経営学科・野菜経営学科・果樹経営学科・花き経営学科・畜産経営学科）	平成30年 11月12日(月)～11月16日(金)	平成30年 12月７日(金)
後期	10名程度 （水田経営学科・野菜経営学科・果樹経営学科・花き経営学科・畜産経営学科）	平成31年 １月15日(火)～２月１日(金)	平成31年 ２月15日(金)

●農業総合センターの開放施設について（御案内）

多目的ホール・大会議室

1．使用時間：全日９：00～17：00
　　半日９：00～13：00（午前の部）、
　　13：00～17：00（午後の部）
2．使用料金：使用の目的や時間によって料金が異なります。
3．そ の 他：事前予約、申請書の提出が必要です。詳しくはホームページの施設利用の申込みをご覧ください。

多目的ホール

大会議室

問合せは　総務課　☎024-958-1706まで

開放実験室

1．利用時間：９：00～16：30（平日のみ）
2．利用料金：無料
3．申込方法：利用申請書をホームページからダウンロードし、ご利用の３日前までお申し込みください。
4．利用できる主な器具・機材：天秤・顕微鏡・米粒食味計・粒数計・フルーツセレクター等

図 書 室

1．利用時間：９：00～16：30（12/29～１/３を除く）
2．貸し出し：基本的な農業書、家庭菜園や食品加工の本、絵本など、約3,000冊の貸し出し。

その他、視察案内も随時受け付けております。

問合せは　企画技術科　☎024-958-1700まで

ラウンド農ふくしま 第38号
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp

編集・発行：福島県農業総合センター
〒963－0531
福島県郡山市日和田町高倉字下中道116番地
TEL 024-958-1700　FAX 024-958-1726

VEGETABLE OIL INK
「植物インキ」を使用して印刷しました

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています